

第1回長浜市政「挑戦と創造」の懇話会 議事要点録

I 日 時 令和2年9月25日（金曜日）14時30分～16時30分

II 場 所 長浜市役所本庁3階 特別会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 石井 良一委員（座長） 齊藤 修委員（副座長）

高津 融男委員 村山 ジェラルディン委員 宮本 麻里委員

今井 輝文委員 吉田 真理子委員 前川 加奈子委員

渡邊 ゆかり委員 松井 善典委員

【長 浜 市】藤井勇治市長

【事 務 局】且本総合政策部長、横尾総合政策部次長、

柴田課長代理、山崎係長、池野主事

くらし・経済再生支援室横田室長、田中主査

IV 内 容

1 開 会

事 務 局 開会を宣言

2 市長あいさつ

- 市 長
- ・私たちの現在の暮らしは「コロナ」と共にあると言えるほど、社会・経済は大きく変容している。感染症の収束にはかなりの期間が必要であると推測されており、くらし・経済に対するきめ細やかな対策を進めていく必要がある。
 - ・反面、新型コロナウイルス感染症は、世の中の様々な課題を顕在化させ、新たな時代の流れを創り出している。
 - ・一つは、行政デジタル化の流れである。これは、コロナ禍において打撃を受けた家計を支援する「特別定額給付金」の支給事務に端を発しているが、本市においても、業務の効率化や、市役所に来なくてもできる市民サービス、キャッシュレス決済の取組が遅れていると感じており、短期間で集中した取組を進めていきたいと考えている。
 - ・もう一つは、東京の一極集中を打ち崩す「リビング・シフト」の流れである。「暮らし方の変化」でテレワークが一気に普及する中で、新しい働き方が模索されている。好きな場所に住み、自由に働くことが可能となる中、職場と暮らしが近い環境や、地産地消が実現できる地方の魅力は、注目を高めている。
 - ・今後ますます進む「人口減少」「少子高齢化」に対応すべく、市民の

豊かで便利な生活を実現する「社会変容を見据えた地域活性化策」を展開し、市内外から「選ばれるまち」を目指す対策を実施する必要がある。

- ・このような社会状況の中で、これからの長浜市について考える時、今まで市民の皆さんと共に創り上げてきたものを、いかに有効に活用していけるかが、大きな鍵となってくる。
- ・私は、本市の市長となり3期目になるが、2期8年間で「種」をまき、「花」を咲かせてきたこの長浜の地に、新たな「創造」という「果実」を实らせたい。そのために、どんなことにも「挑戦」していく。
- ・このような思いをこめて、この懇話会の名前にも「挑戦と創造」を掲げている。
- ・時代の大きな分岐点である今、未来の長浜市はどうあるべきか。このピンチの状況をチャンスに変えていけるよう、皆様のご経験なども踏まえ、ご協議いただきたい。

3 委員紹介

事務局 各委員および事務局から自己紹介

4 懇話会の役割について

事務局 資料2に基づき説明

5 正副座長選出

事務局 座長及び副座長は、委員間の互選により選任することを説明
→座長に石井委員、副座長に齊藤委員が選任された。

座長 【座長挨拶】

- ・挑戦と創造の懇話会は、これまでは少子高齢化にどう立ち向かうかについて議論をしてきた。
- ・新型コロナウイルス感染症により時代の転換点を迎えている今、感染症にどう立ち向かうかという点において、私としては、新しい改革を進めるきっかけとしてやる気が増している。
- ・大学も前期はオンライン授業になり、当初は、授業方法を模索するところから始まったが、今ではオンライン授業になったことで喜んでる学生もいる。
- ・新しい改革を起こしていくことは困難であるが、何かきっかけがあれば改革が生まれるのだと実感した。
- ・長浜市も様々な取組の中で、今を乗り越えた先の、新しい未来を作っていかなければならない。
- ・当会は、懇話会であり、いわゆる審議会のように「諮問に対し答申す

る。」といった役目を与えられているものではない。市の取組に対し、市民目線でそれぞれのお立場から自由闊達なご意見を頂戴できればと思う。

・事務局は、当会で出された意見を十分尊重し、今後の取組に活かしてほしい。

6 議 事

(1) 長浜市定住自立圏共生ビジョンについて

事務局 資料3、資料4、資料4-1、参考資料3、参考資料4により、定住自立圏構想の制度概要、第2期共生ビジョンの見直し、第3期共生ビジョンの策定について説明

委員 (座長) ・資料4-1の○が付いていないものは、第3期共生ビジョンでは取り上げないが、総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略で対応するという理解でよいか。

事務局 ・その通りである。今回、第2期掲載の103事業を、第3期で44事業に縮小している。しかし、縮小した事業を行なわないのではなく、「集約とネットワーク」の考え方を活かし、定住自立圏構想として実施していく事業のみを選択したものである。

当市は他市と比較しても、計画掲載事業が多いため、今後は効率的、且つ効果的な計画の運用に努めていきたい。

委員 (座長) ・資料4-1の事業概要は第2期のものが記載されており、第3期の内容については今後検討していくのか。

事務局 ・令和3年度の予算編成の中で、内容が変わるもの等については変更していく。ただし、これまで継続的に実施されてきたものが多く、大きな変更はないと考えられる。

委員 ・コロナによって見直しが入ったもの、変更を余儀なくされたもの、より強化していこうといった部分はどのように反映されているのか。

事務局 ・現時点では令和2年度の事業概要が記載されているため、コロナに関する変更等はしていない。

しかし、コロナ対策や、令和3年度の予算にむけた各部局の議論が始まっており、コロナによる施策の変更を行い、より良いものに変えていくチャンスであり、議論していく。

2月に令和3年度の当初予算を含めた形で改めてお示しできたらと考えている。

(2) ポスト・コロナ期に向けた地方創生施策について

事務局 参考資料5、参考資料5-1に基づき、長浜市の「暮らし・経済再生プラン」について説明

- 座長
事務局
座長
- ・このプランは都度改定をしていくという位置づけか。
 - ・その通りである。
- 資料5に基づき、コロナ禍の日本経済、地域経済への影響、アフターコロナ時代の自治体に求められることについて説明
- 座長
- ・コロナ禍で自身が経験したことや感じたこと、行政への提案等について委員各自、発表をお願いします。
- 委員
- ・コロナ禍を通して、「挑戦と創造」をいかに実践していくかが大事なキーワードになったと考える。その中で、医療現場も影響を受け、自分の命の危険も感じながら診療をすることは新鮮な経験であった。市民の受療行動をどう行政が広報していくか、全国のPCRの流れと湖北医療圏のギャップを埋めていくことが重要である。特に、冬にインフルエンザの流行があった場合に、コロナとの両方の対応は長浜市の医療機関では難しい現状がある。従って、市民に新しい受療行動を理解してもらい（熱はあっても元気なら病院にいかなくてもいい、既に発熱していたらインフルの検査の必要はないなど）、重症の人や、本当に検査を必要とする人にしっかりと診療が行き届くようにすることで、重症化を防ぎ、感染者の広がりを抑制していくことができる。開業医の先生は、自分たちのかかりつけの患者をどう守っていくかを考えたときに、市民の受療行動が非常に重要である。また、オンライン診療も普及しているが、オンラインでは見えない部分もあり、実際に会うことや、対話することも重要な行政サービスであるため、無くしてはならない。
- 座長
- ・インフルエンザワクチンの接種率は、助成もあることから例年より増加すると考えられるが、医療機関は対応できるのか。
- 委員
- ・対応できる見込。現時点でも昨年より予約件数も多いが、日本に6000万本のワクチンがあり、その中で対応していく。対応できない場合として考えられるのが、再検品等の理由でワクチンが入荷されないときである。
- 座長
- ・インフルエンザワクチンを受ければ、コロナとの区別はできるのか。
- 委員
- ・インフルエンザワクチンを接種している人は、療歴や行動歴からコロナであるかの判断ができると考える。得に唾液を飛ばしあう状況があるかないかは大事な療歴である。最近の論文では、高齢者の方へのインフルエンザワクチンの投与でコロナの重症化を防げるという事例も出ている。インフルエンザワクチンは、自身の命を守るためにも、重症化しやすい高齢者や子供、医療従事者や県を跨ぐ頻繁な異動がある人など、リスクの高い人にはぜひ打ってほしい。

- 委員 ・数年前に長浜に引っ越してきたが、長浜にはWi-Fi環境が脆弱で、コロナ禍でテレワークやワーケーション、サテライトオフィスが推奨されている中、そういったオンライン環境の整備、施設の設置が重要である。環境が整っていると、引っ越しや仕事もしやすく、移住対策としても起爆剤になるのではないかと感じる。
- また、市内で経済を回していくためにも、地元の事業とフリーランスの方々をマッチングする仕組みがあると、仕事面でも安心して長浜に住むことができる。
- また、町内会に入ると、自分の働き方と地域のペースの違いや、子や孫へと代々受け継がれてきている所に自分が入ることへの閉鎖的な部分を感じる。
- そのため、単身家族や単身者でも引っ越してきやすい、住みやすい政策、制度があるとより移住しやすいのではないかと感じる。
- コロナの影響で厳しい状態が続いているが、その中でも自分たちで新しい仕事の方法を模索し、クラウドファンディング等、積極的に挑戦されている方もいる。
- 委員 ・宿泊業は、営業停止の時期はかなり打撃を受けたが、その後、長浜市の宿泊キャンペーンの影響もあり、キャンプ場は徐々に客足が戻ってきている。しかし、レストランの利用者や、仕出しの注文件数はかなり減った。その中で、地元の高齢者の方の利用もあり、コロナで閉鎖的にならず、地元で何かをしようという気持ちを感じる。
- また、Go Toキャンペーンによる賑わいもあり、嬉しい反面、長浜市にコロナが入ってきてしまったらという不安も感じる。遠方のお客様も受け入れたいが、どうしていけばいいか、対策をどこまですればいいのかというのが悩みである。
- 委員 ・フードロスを無くしていく大切さを改めて感じた。
- 給食の停止や、ホテル、飲食店の休業のより、影響を受けた農家の方が多くおられた。その中で、農産物を皆で支援するというネットワークが立ち上がり、声掛けをして、全て販売できるように協力体制がとられていた。
- コロナの影響以外にも、猛暑等で規格外の作物等も多くあるが、このネットワークを通じて、ロスを少しでも無くしていきたい。
- 委員 ・建設業界は3.4月は直接的な落ち込みは出なかったが、リフォームや新築の検討を自粛されていた影響が、遅れて出てくるのではと思う。
- 飲食業界の方はすごく苦勞をされており、少しでも支援をするため、市内のお店を利用して、市内の事業者の方々にお金が落ちるようにしていきたい。
- また、コロナになってしまった際、どこの誰かがすぐに噂されてしま

- うことが一番怖いことである。
- 委員 ・子育て支援をしていく中で、コロナが流行する前から、家から出てこない、出てこられない人たちが抱える問題にどう気が付けるかが問題になっていたが、今の状況で、より中身が見えなくなってしまった。少しでも話したり、関わることがあると、雰囲気の違いなどで問題が小さいうちに気が付くことができたが、今はその些細な変化に気が付くことができず、気づいたときには大きな問題になっていて、そこにどう対応していくかが課題である。
- 今はオンラインや電話相談もあるが、やはり直接会って、場の空気感がわかる関係性も必要である。
- また、子育てしながらのテレワークは思うようにできず、仕事にならなかつたり、コロナの影響で仕事が無くなった人も多くいる。
- 正社員でなくても、短時間でもいいからお金が必要であるというニーズは高まっており、ハローワークの相談もすぐに定員に達してしまう。
- 今後は、どんな人でもできる仕事を、在宅ではなく、休校などの際には子どもと一緒に職場に来て仕事ができる環境を今のうちに作っておけないかと思う。
- 委員 ・仕事のために遠方に行くが、仕事で接する子どもたちや自分自身を守るために十分に気を使い、もし誰かが、自分が感染してしまったらという不安で、今まで以上に疲労感がある。
- 子どもたちの中にも、休校や、家庭環境の変化でストレスが溜まっており、今まで以上に愛を持って接しなければならない。
- 長浜での英語ボランティアの機会もコロナで無くなってしまったが、できれば自分の住んでいるところで働きたいと思っている。
- また、外出がしにくい中、長浜で楽しみを探し、琵琶湖でヨガをしているが、改めて長浜の景色や環境の良さを感じた。
- 委員 ・私自身もテレワークをしながら、家事や介護をする中で、仕事の両立の難しさを感じた。そのため、環境の整ったコワーキングスペースの設置は重要である。
- コロナ禍の中で①今までの社会の在り方の無駄な部分、②オンラインを活用したコミュニケーション等の新しい可能性が見えてきた。
- 今後は、①で分かった無駄な部分をいかに改善していくか、②の可能性のツールを拡大させて、先を読むアンテナを張り、他市に先駆けて長浜市が取り組むことで「選ばれる町」にしていくことが重要である。
- 第3期定住自立圏共生ビジョンに掲載の事業を見て、どの部分が「挑戦と創造」なのか、何をメインに取り組んでいくのかが一目でわかるようになっていっているとよいと感じた。

各項目で疑問に感じた事項を挙げると、
34番の理系人材育成事業は、対象範囲が広すぎて曖昧であるので、理系の〇〇の人材など、ターゲットを絞っていてもいいのでは。

また、バイオ大学のサークル頼みになってはいけない。

46の商業振興対策事業は、住環境の整備がどうして商業振興に繋がるのか。その理由が見えにくい。

59の観光周遊バス事業は、歩いて買い物に行く高齢者にも利用できるような市民とも関連させていけるとよりよいと思う。

また、様々なことを実践するとき、ノウハウが無いために実現できないことがある。この懇話会自体がマッチングに繋がる場でもあるが、市でマッチングに力を入れて、農産物の販売、英会話、専門技術を持った人などのノウハウを役立てられるような場を設けてはどうか。場所はWi-Fi等が整ったコワーキングスペースで、子どもも預けられるような場があるとよい。

スキルを持った人を増やす、育てることも重要で、例えば動画編集のできる人を講師にして、できる人を増やし、「長浜＝動画で発信する町」とPRするなど、今のニーズに沿った必要人材を育てることも重要であるのではないか。

委員 ・働き方の大きな変革で場所を問わず仕事ができる今、長浜が仕事場の選択肢になることは喜ばしいことである。

その中で、サテライトオフィス等の設備も必要ではあるが、長浜に來たいと思ってもらえる魅力発信も重要である。

例えば、車で移動するニーズが高まっていることから、車でいけるおすすめスポットや、ビワイチで安全に通れる気持ちの良い場所の発信をして、少しでも長浜に興味を持ってもらえたらよいのではないか。大学は、リモート授業をする中で、対面よりも出席率が上がったり、県外から通う生徒も受講しやすく、先生は動画の資料を作ることで他の場面で活用できたりと、良い変化もあった。

しかし、学校の課外活動等の楽しい行事が自粛傾向にあり、学校の魅力が低くなっているのではと心配をしている。

行事等が無くなっても、生徒に楽しく学生生活を過ごしてもらうためにどうするか、魅力が低下しないようにどうするかが大切である。

また、国からコロナへの対応方針が随時示されるが、それに沿った学校のルール作りにはかなりの労力が必要となっている。

座長 ・議論は尽きないが、本日はここで終了とし、次回以降の議論につなげることにしたい。

7 その他

事務局 今後のスケジュール等について説明

8 閉会

事務局 総合政策部長よりあいさつ

以上